

# 経営比較分析表

佐賀県 有田町

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分                         |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 水道事業        | 末端給水事業 | A6                             |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |
| -         | 71.50       | 99.38  | 3,790                          |

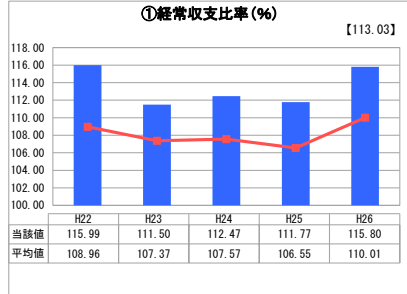
| 人口(人)     | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )   |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 20,844    | 65.85                    | 316.54                     |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km <sup>2</sup> ) | 給水人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 20,666    | 65.80                    | 314.07                     |

**グラフ凡例**

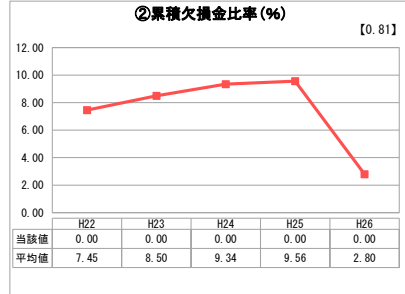
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成26年度全国平均

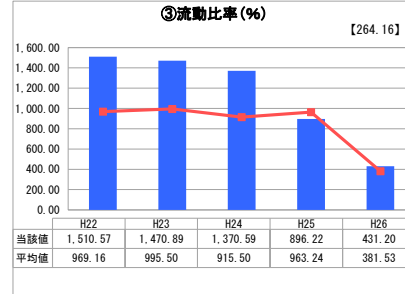
## 1. 経営の健全性・効率性



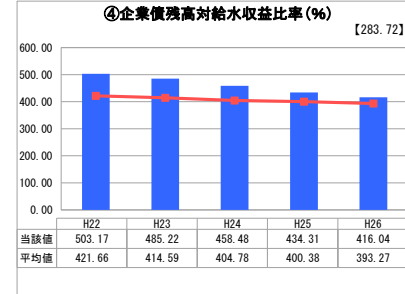
「経常損益」



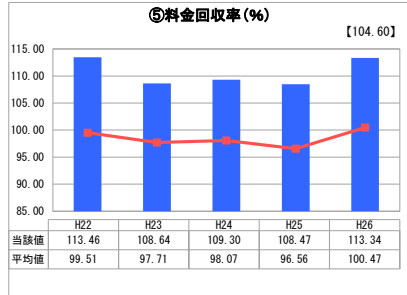
「累積欠損」



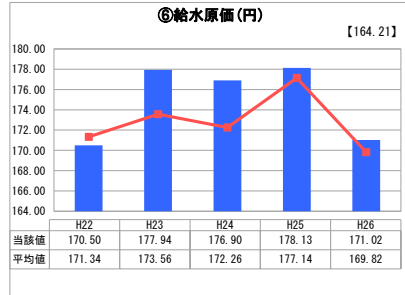
「支払能力」



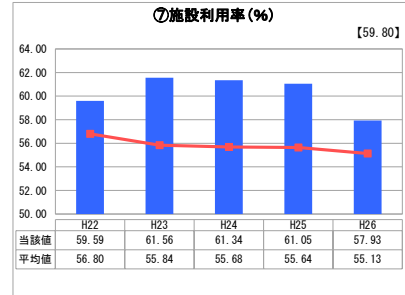
「債務残高」



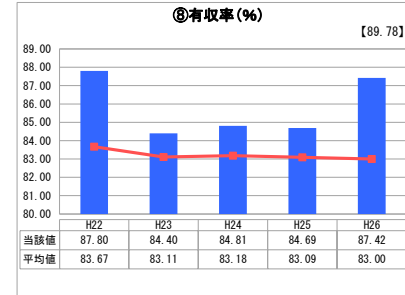
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

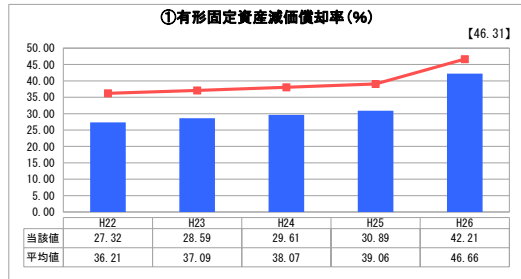


「施設の効率性」

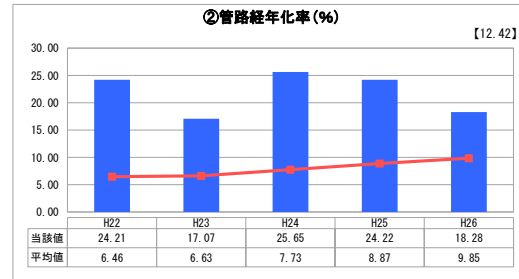


「供給した配水量の効率性」

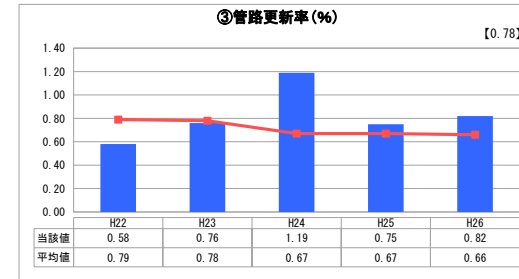
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上で収支は黒字である。給水収益以外の収入には依存しておらず、料金回収率をみても類似団体と比較して高い水準を保っている。しかし、人口減少が続いており、これ以上の収入増は望めないことから、施設の更新費用を賄うための資金が枯渇しないように対策を検討しておく必要がある。

有収率については平成23年度から本管の漏水が多発し、有収率が下がり修繕費が増加していたが、平成26年度には落ち着いている。

### 2. 老朽化の状況について

平成23年度に漏水が多発し管の修繕費が高んだことを受け、平成24年度は資本的支出により管の更新額が増えた。法定耐用年数を経過しても管路を使用できないわけではないが、全体として管路の経過年数が増えており、浄水場を含めた計画的な施設更新が必要である。

### 全体総括

当町の現在の水道事業の収支は黒字で安定した経営を続けているが、人口減少に伴う収入の減に加え、施設及び管路の老朽化と水道事業の今後は明るくない。平成26年度までは施設の更新時に大幅な企業債借入れは控えていたが、今後は借入れを行い単年度の負担を軽減しながら現金を確保し、有価証券などの新たな投資を行うことも検討していく必要がある。

料金単価については、現在の経常収支比率が良くても、単独費による施設更新等のための建設改良費が大きければ現金は目減りするため、施設更新及び起債償還を含めた将来計画の策定が必要となってくる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。